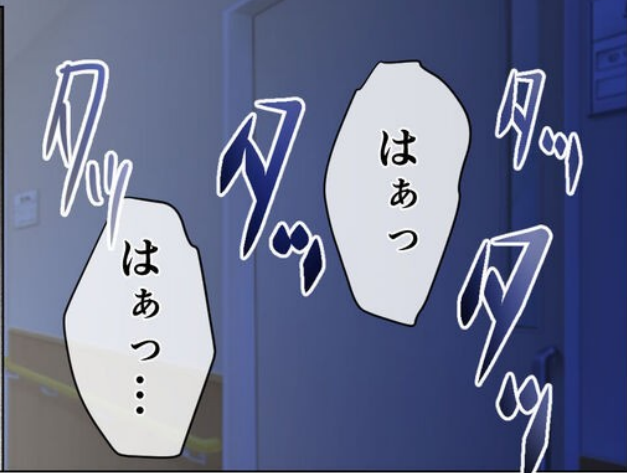


モザイクコミック総集編



ヒトヅマ明日香は
ネトラレ依存症

~主人以外とのSEXは蜜の味~

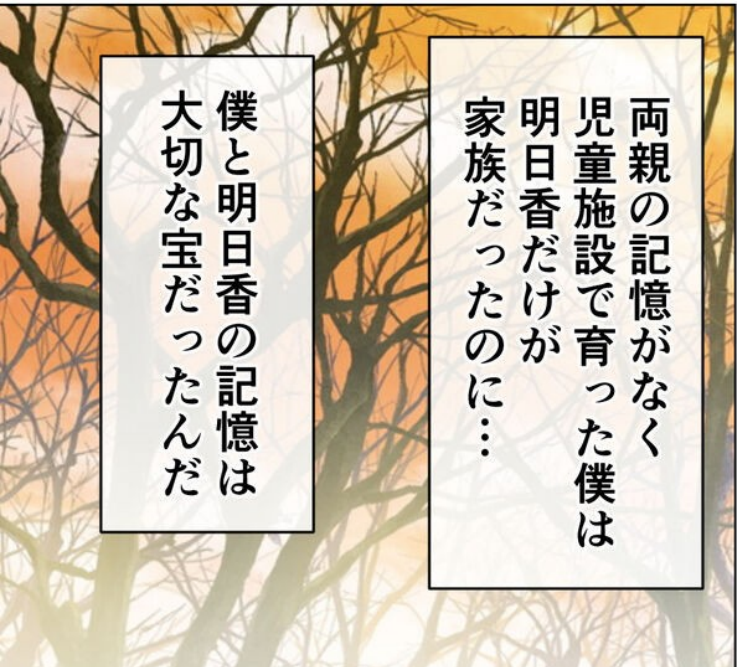


しかし、再び目を
覚ました時には...

事故の割には
奇跡的な軽傷で
済んだようであった

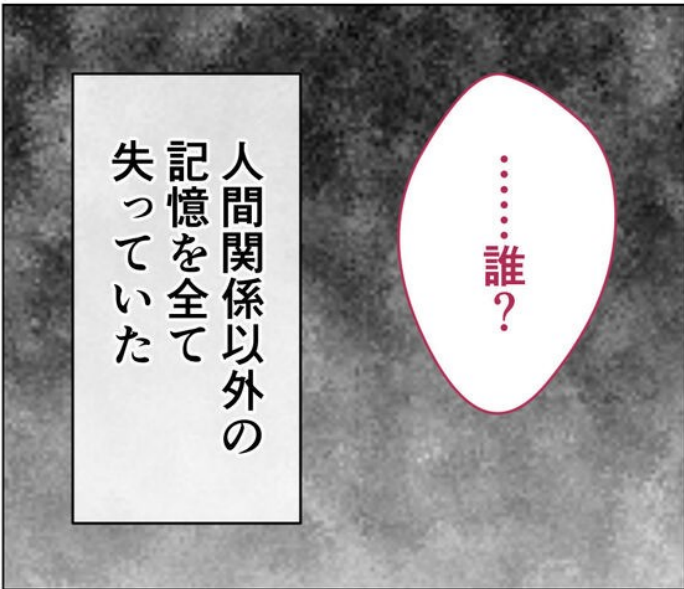
交通事故を起こし
大学付属病院に
運び込まれた

僕（峰村）の妻
明日香



両親の記憶がなく
児童施設で育った僕は
明日香だけが
家族だったのに...

僕と明日香の記憶は
大切な宝だったんだ



人間関係以外の
記憶を全て
失っていた

.....誰?

孝弘さん
ここが私の家…
なんですすよね

それが、退院後に帰宅した
明日香の第一声だった

そうだよ

このお気に入りの
マグカップも
覚えてないかい？

あ、あの、ごめんなさい
思い出せなくて…

でも新鮮で
今の自分を気に病んでいる
訳じゃ無いというか…

え？

確かにそう言う
考え方もある…

けど、重ねてきた思い出が
なかった事になるなんて
たまらなかった

…ま、とりあえず
しばらくの間は

無理はせずに
ゆっくりと
休むといいよ

あなた…

ん？

ごめんなさい…
私がこんな事にな
っていけないければ

迷惑をかけずに
済んだのに

なに言ってるんだい

明日香がここに
いてくれる

それだけで
十分嬉しいんだよ

入院した時も
どうか命だけは…
そう考えていたんだ

ドキッ

ぎゅっ

ああ
覚えています

あなた…

あなたの体
その感触…

もっとあなたを
感じたいです…

ドキ

ドキ

んふ……あっ
ああ、そ……

毛三ッ!

けれど、明日香のなめらかな
肌の感触は何も変わっていない

んんっ
さわっ
んん

さわ

事故に遭って入院した明日香が
戻ってくるまで
約1ヶ月ほどの時間があった

んあっ

久しぶり……
なんですよね、きつと……

はまっ

……やっぱり
覚えてないんだ

はまっ



だから……
続けてください

でも
懐かしく感じて

ごめんなさい……
思い出せないですけど

んちゅっ



愛撫を重ねていくに連れ
明日香の秘所は少しずつ
潤いを増じていく

はんぷっ……あ……
はんっ

敏感なところも
変わっていないんだ



はあああっ
んああっあああっ!!

あんなことっ……



あんなことっ……

んんっ、あああっ
上と下、はひっ、両方っ

あうっ、気持ちっ
んんっ、いいですっっ！

ビクンッ

んんっ

ビクンッ

もう、十分濡れて
いるみたいだし

そろそろ良いかな

はまっ

お願い
します…
私の中に…

くはあ

はまっ

ビクンッ

はっ

ビクンッ

はまっ

じゅんじゅん

んんんんん...

明日香っ
大好きだっ！

はあっ

あんっ、んんっ！
入ってきてますっ
んっ、んんく、あああああ...

んんん

じゅんじゅん

んん

じゅんじゅん

んん

んん

じゅんじゅん

じゅんじゅん

あっ

んん

あん.....

はあ.....

じゅんじゅん



あなたのすごく
感じちゃってっ

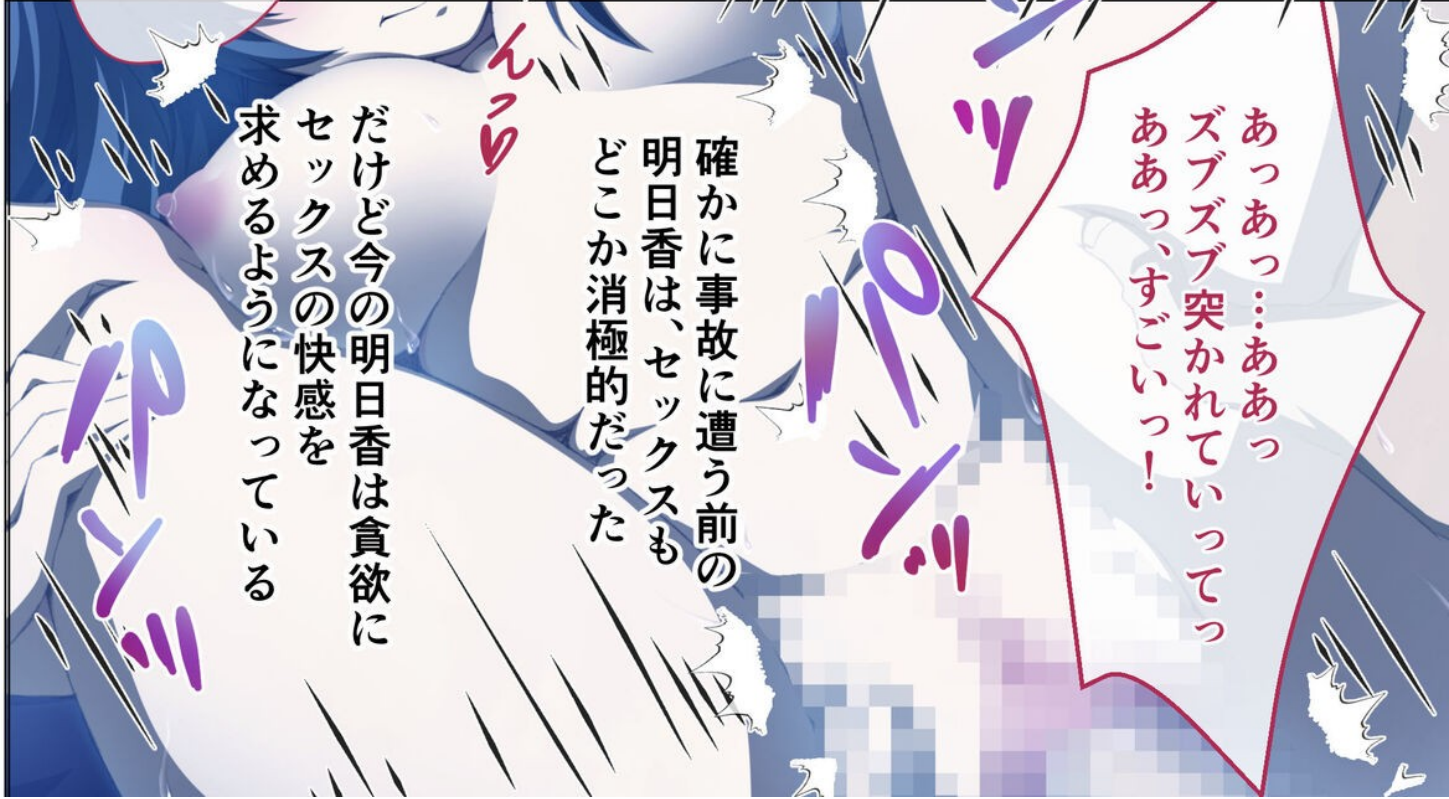
だから、アソコ
勝手に熱くなって
いっちゃって!

あっ♡

あっ、くあああっ!!

大きく腰を動かして
明日香の秘肉の中へと
抽送を開始する

あぁ、エッチな私で
ごめんなさいっ…



あっあっ…ああっ
ズブズブ突かれていってっ
ああっ、すごいっ!

確かに事故に遭う前の
明日香は、セックスも
どこか消極的だった

だけど今の明日香は貪欲に
セックスの快感を
求めるようになってる

いけっ！明日香っ
早くイツちまえよっ！

私もっ…あああつ
もう限界っ………！

ズルズルズルズル
ツ

はあっっ！ 来たあっっっ！
奥っ！あああつ、イクツツツ！
イツちやうううっ………！

ああああ！！
イカアツはああ

ペ●スを明日香の中へ
思いつきりねじ込み
僕はザー●ンを流し込んだ

はあっ

ハ
ン
ッ
ッ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

ん
ん
ん

日曜日――

彼女と二人
繁華街を回って
買い物をする

思い出の喫茶店も
行ってみたが
明日香はいつもと違う
メニューを頼む

名前や容姿以外の
思い出や記憶は
殆ど思い出すことが
出来ないようだった

その後、明日香が
行きたいという
書店へ立ち寄った

あ、峰村さん……

やはり覚えてはいなかったようだが
この書店は、明日香が事故に遭う前に
働いていた場所だった

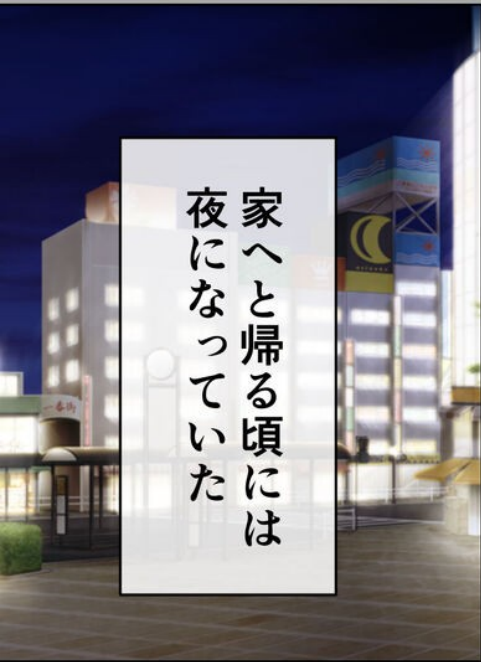
退院
おめでとう
ございます

店長の中川博嗣さんは
僕が出版社に勤務
している事もあり
以前から親しくしていた

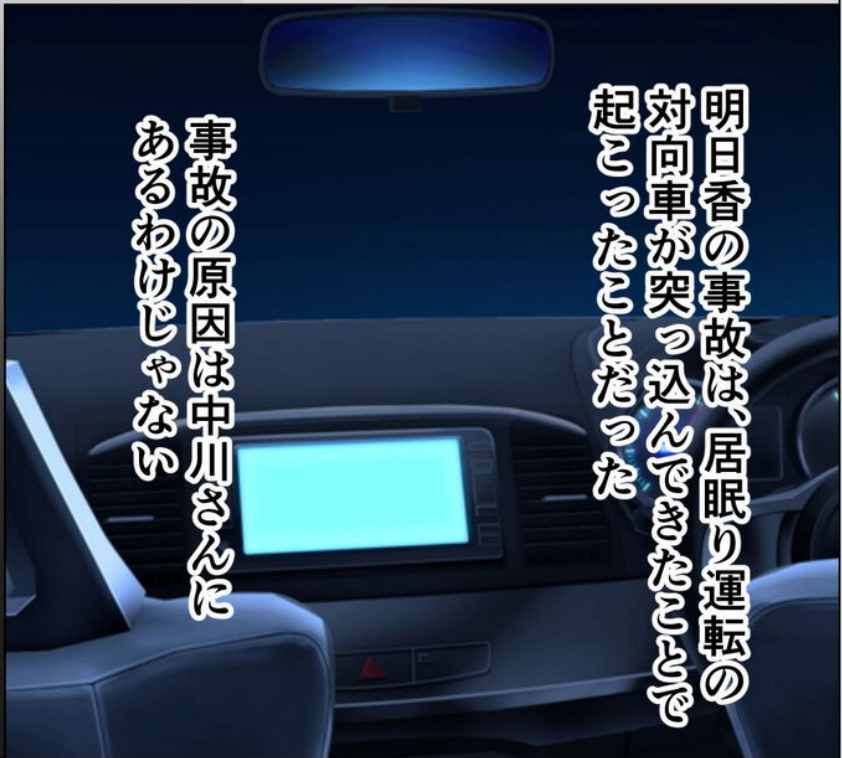
しかし、本当に
申し訳ありませんでした

あの時……

私が外商商品の
配送をお願い
しなければ……



家へと帰る頃には
夜になっていた



明日香の事故は、居眠り運転の
対向車が突っ込んできたことで
起こったことだった

事故の原因は中川さんだ
あるわけじゃない



しばらくは
日常の生活に
慣れてさ

仕事の復帰については
その後でゆっくり
考えようか

…はい！
あなた

私、これからまた
あなたと一緒に
こんな風に

新しい思い出を
作っていききたいです

んむっ
はっ♡
はっ♡



どうですか…? んんっ
気持ち良いですか?

はっ
はっ
はっ

ああっ、気持ちいいよっ!
でも、何でッこんな事っ!?

はぁっ

モエッ
ユッ

それはっ…

あっ

はっ
はっ
はっ

はっ

んくっ…
よだれ気持ちいいっ!

もっとあなたを
感じたいから…

あなたの全てを
感じたいからですっ

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ

にゅぽっ♡

にゅぽっ♡

はい……
すっごく熱くなって

エッチなおつゆが
トロトロに
溢れてきています……

しゅくっ

しゅ

……ん？

もしかして
明日香も……？

お願いです、あなた……
もっと感じさせてください
……あむ……んちゅ……

しゅ

とろろお……

とろっ……

しゅ



それじゃあ……
いきます……
んっ、んんんっっ!

ちゅ、
ちゅ
ちゅん、
ちゅん、

はっ……
んんっ……

今、一緒に……
私の中にあなたが
いるんですね

アソコ
アソコ

クッ……
僕も、明日香の動きに合わせて
懸命に腰を動かしていく

みちゅ

うっ、おおあっ……
んっ……イイツ

明日香のアソコ
締め付けてきてっ
すごく気持ちいいよっ





ペ●スを打ち込むと同時に
股間をク●トリスに押しつけ
すり潰すように腰を動かしていく

ぼ、僕もっ、限界だっっ！

あぐうっー！やっ、ああっっー！！
そっっ、敏感すぎてっっっ！！

あっ、んんんっ
はああっっっ！！

ああっ、深いところまでっ
んくっ、はああああ！

ク●トリスへの責めは
明日香にとって
かなり効果的であった

ビクッ

あっ

ビクッ

あっ

ハッ

くっ

ハッ

くっ

ハッ

ハッ

ハッ

ビクッ

ハッ

おあつ、おあつ

おあつ、イクツツツッ！
イクツツツツツッ！……！

イクツツツツツッ！

イクツツツツツッ！
イクツツツツツッ！

！！！！

孝弘さんが好きという
気持ちがある限り
私の心が誰かに
ぶれることはない

そんな中
この前、中川さんが
言っていた

明日香さんに
店の大切な戦力として
戻ってきて欲しいです

私への信頼を置く
言葉を思い出していた

次の日――

それでは改めて
今日からよろしく
お願いしますね

奥さん

仕事を復帰するにあたって
私は孝弘さんと一緒に
携帯電話を購入
してから書店に向かった

緊急連絡先として
中川さんに連絡先を
教えた後

本屋へ本格的に
復帰した私の
初日の仕事が始まった

峰村さんには今回
文庫本の担当を
お願いします

店長、あの
ご相談が…

しかし
事故に遭う前の私は
雑誌の仕事を
担当していたらしい

記憶を取り戻す
きっかけにするため…
孝弘さんのためにも
以前と同じ担当を希望した

…差し出がましい
ようですが

過去の自分にあまり
囚われない方が
良いと思いますよ



ただ、もし私が
その立場だったら

無意味に過去に
拘ることはない
と思っただけですよ

それは……



僕たちの方でも
頑張るって

なんとかしても記憶を
取り戻さなくちゃな

孝弘さんに伝えると、やはり
返ってきたのは喜びの声
ではなく驚きの声だった

過去の記憶を
無くしてしまっても
私は私なのに……



はい
私から店長に
お願いして

文庫ではなく
以前と同じ雑誌担当に
してもらったんです

えっ
そうなのか？

日曜日のある日

私は孝弘さんにとある遊園地に誘われた

で、今度は何のアトラクションに行きましようか？

誘ってくれたのは新しい思い出作りのアピールなのだろうか…

ワクワク

あなた…あの

もしかして前もここに来た事ってあるんですか？

ああ
そうだよ

明日香との写真も
ここにあるよ

孝弘さんは、常に過去の私を取り戻そうとしていたのだ…

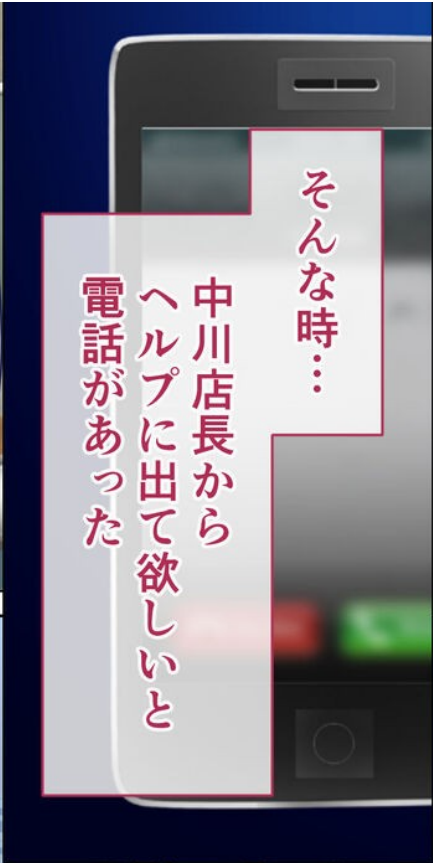
アトラクションを回った順番にも意図があったということだ



今日は
本当にありがとうございました
ございました

閉店後の
手伝いまで…

どうしました？
ずいぶん疲れて
いるようですが



そんな時…

中川店長から
ヘルプに出て欲しいと
電話があった



あの人は…主人は
昔の私しか
見ていないんです…

中川さん…
今の私を見てくれるのは
あなただけなんです…

だからお願いです…
私の事もっと
抱きしめてください…

お、奥さん…

だき

んむっ……
くっ……はっ……

あっ♡

……峰村さん

はあ♡

あんっ、私のアソコ
イヤらしい音たててっ……!

わんちゅん

ちゅん

んん

くちゅん

くちゅん

んちゅん

気持ち良くなっている
奥さんを見ると

こちらも嬉しく
なってます

あんっ♡

だったら……
もっと気持ち良く
させてくださいっ!

エッチなこと
いっぱい
してください……



あっ

んあっ

ちゅっ

あ

かきゅり

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ



くりっ

だったら
邪魔な物を
取りましょうか

もみ



あ……

これで自由に
手を動かせる
ようになりました

どろお……

キヌンッレ

キヌンッレ

孝弘さんの事を
忘れさせて欲しい……



じゃあ、もっと
続けていきますね



この触り方
気持ち良いですう…

はまっ
ああっ
いいです…



んくっ、ああっ、もう
指はいいですからっ！

ズッ



あんっ、お願いしますっ！
私っ、もう我慢
出来ないんですっ！

ズッ

あっっ

ズッ

ズッ

んくっ

ええ、僕もそろそろ
限界だったんですよ

今からコレが…
私の中に……

ドキッ

孝弘さんのモノより
一回り以上太く
長さも5センチ以上は
勝っているように見えた……

ドキッ……

何これ……
思いがけないほどの圧迫感……

んんうっっ……!!
ああっ……はああっ……

んっ、奥さんのあそこ
熱くて凄いですねっ……

それじゃあ
動きますからっ……

あち…
あちあちっ♡

ふーっ♡

ふーっ♡



ふあっ……
あああッ……

孝弘さんより
ストロークの長さが
全然違うっ……

あふっ……アツ、アアアン！
ヒイツ、あああっ……！

あまりにも気持ち良すぎて
私の頭の中は、中川さんの
モノの感触で一杯になっていた



わあ
わあ
わあ

んっ
んっ
んっ

んっ
んっ

クキユッ

!?

急にそれまで味わっていた
充実した感触が消失する

もう、ここで止めた方が
いいんじゃないでしょうか…

ゴムも僕は
持っていないですし…

いちゃぶっ

何で今更
そんな事を……

フッ♡

そんなこと
言わないでくださいっ！
ここで終わりだなんて…

最後まで
続けてください……

平気です。だって…
今日は大丈夫な日
ですから…

…わかりました

それじゃ、格好を
変えましょうか

私も中川さんも
服を脱いでいき……
最後に指輪を外した……

ん？……
んああああ

おっぱい

んふっ

んふっ

んふっ

んああ

んふっ

んふっ

んふっ

んふっ

イヤアアツッ!
あッイク、イク、イク、イクッ!

僕もっ!
いいですかっ!?奥さんっ





あぁっ……熱いのお腹
いっぱいっ……

そして、この日をきっかけに
私と中川さんは幾度となく
体を重ねていった

もちろん
罪悪感はある



はい……

『夜勤』
それが私を誘う
中川さんの言葉だった

あんう……

峰村さん

今日も良ければ
夜勤をお願い
したいのですが



こんなに敏感なもの
いいですよ

僕が触る前から
もう愛液でぬるぬるに
なっていますよ

奥さんのあそこ
本当に綺麗ですね

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

はーっ

はーっ



そ、それは中川さんと
することを思うと

どうしても
興奮して濡れて
しまっ……

んんー

んんー

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ



これ以上刺激を
受け続けたら
どうなってしまうの……?

はああっ……
うああああああっ!!

キュッ

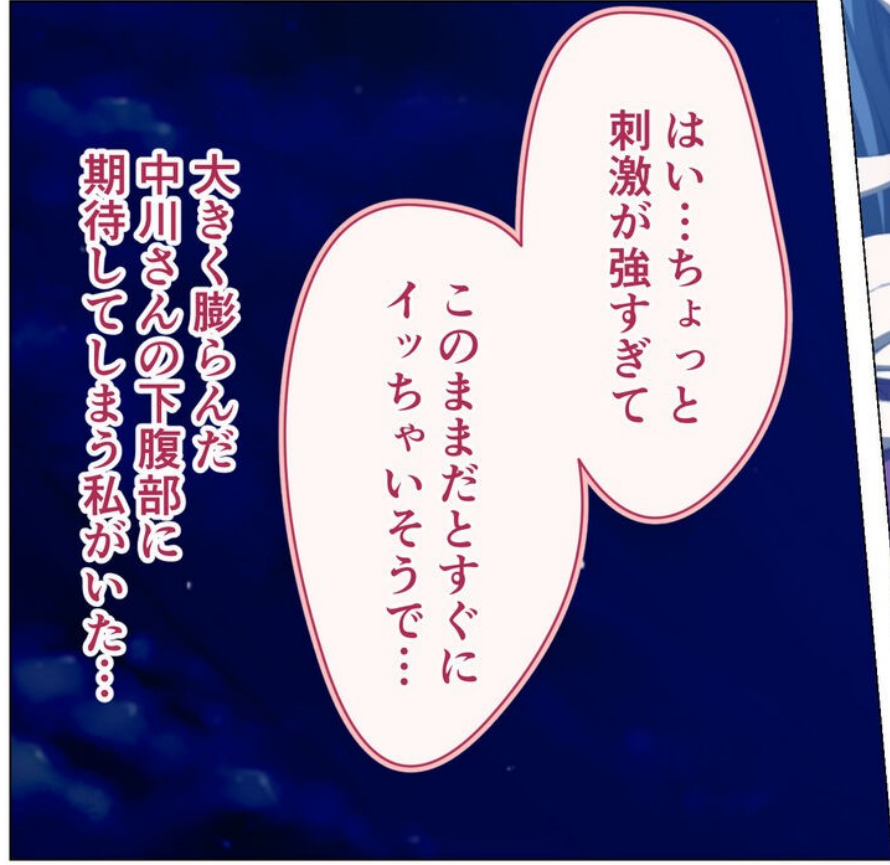
あの中
ゆるるっ

少し調子に
乗りすぎましたね…

すいません



そんな恐怖感すら覚えた私は
身をよじって中川さんから
逃れていく



はい…ちよつと
刺激が強すぎて

このままだとすぐに
イッちゃいそうで…

大きく膨らんだ
中川さんの下腹部に
期待してしまっ私がいだ…

ドキッ

中川さんの手で
一枚ずつ服を
脱がされていく

ドキ...

はい
来てください...

十二か...

やっぱり峰村さんの
体は綺麗ですね

それじゃ
始めましょうか

入れますよ
んっ

んあっ
私の中に...

ツクッ

んっ、はっ
あっ、んんっ！

あぁあっ

ガ
チユ
ンッ

力強い腰の動きで
アソコの中を突き上げてくる…

私もまた腰を押し上げて
擦りあげる

バ
チユ
ンッ

中川さんのペ●スが
私の体にだいぶ馴染んできて
どうすれば感じやすいのか
少しずつわかるようになってきた

んんん

ああっ、アソコッ
入り口こすってっ！
んくっ、たまらないです！

バ
チユ
ンッ

けど、このままでは
いけない
どこかで踏ん切りを
付けなければ……

か
しゃ

ただいま
戻りました

いったい私はこの人を
何回裏切ったのだろう……

明日香は
大丈夫なのかい？

ずいぶん疲れて
いるように見えるけど

事故の前に明日香が
働いていた時

今ほどには夜勤の
回数は多く
なかったからさ

僕が夜の家事関係は
引き受けようと
思うんだ

そんな事をして
もらうような人間じゃ
ないのに……

私は、中川さんとの『夜勤』……
そして関係を終わらせる
ことを決意した

私のために……

…ともあれ、峰村さんのご意志は伺いました

それじゃあ……？

ええ、奥さんに『夜勤』をお願いするのは辞めて

ご主人に余計な疑いを抱かれないようにしましょう

あ、ありがとうございます……

結局私は中川さんにはつきりとした事を言うことはできなかった

それから何事もなく十日が過ぎたが――

峰村さん
私たちの関係に

気づかれた
ような所は
ありますか？

今日あたりからまた『夜勤』をお願いしても
良いですか？

それは……

もう
お受けしない方が
良いと思うんです

僕だって
そうです

今日の前にいる
明日香さんを
ずっと求めてきました

ああっっ！

僕の方が絶対、明日香さんを
幸せにできますっ！
だからっ…

だから、お願いですっ！
考え直してくださいっ！

ああっ、いやあっ！
ダメですっ！

え…？

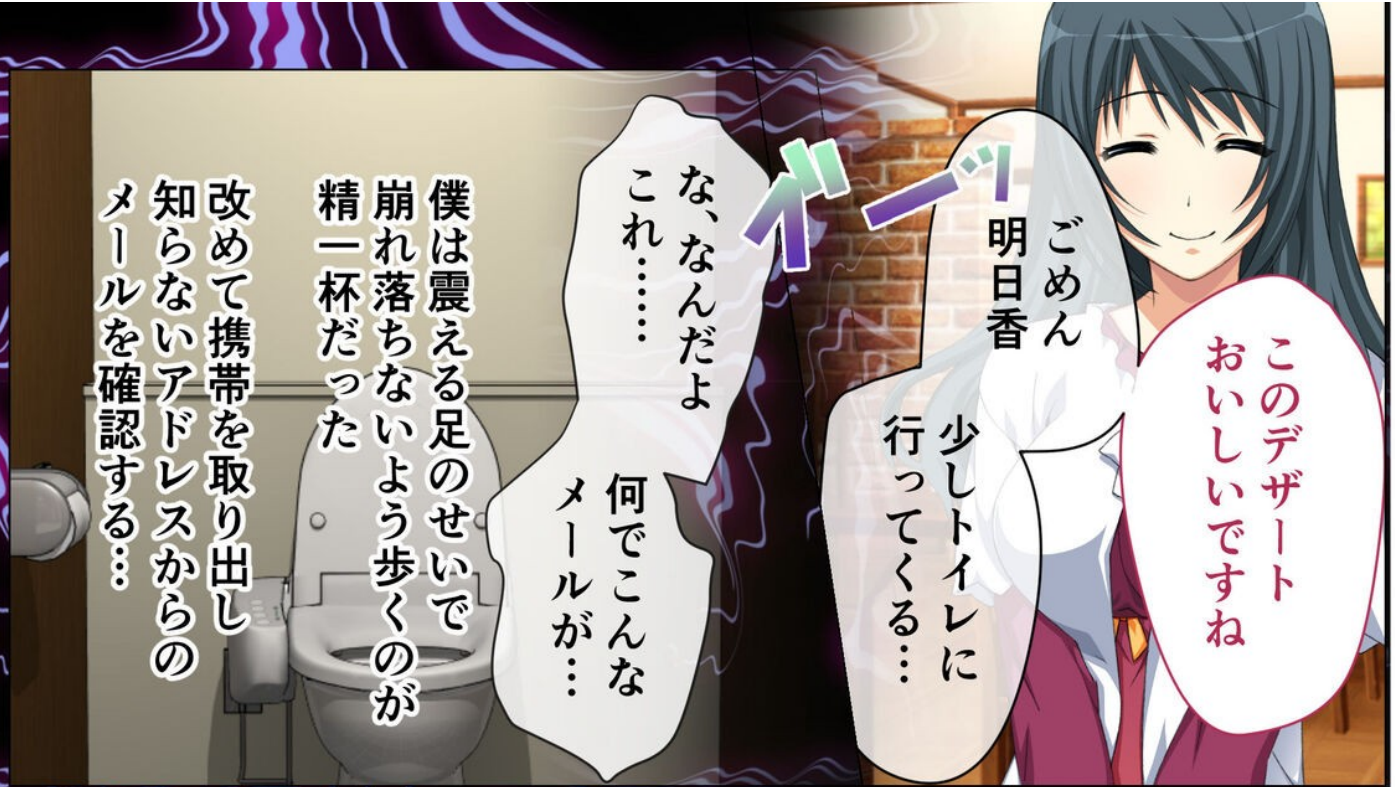
ずっと求めてきた？
始めてセックスを
したそれより前から…

私は、何とか
身をよじり
中川さんの
手から逃れた…

けれど、結果的に私は
中川さんの心を
弄んでしまったのだ…

一刻も早く
孝弘さんに会いたい…
そんな衝動から
ご飯に誘う電話をかけた

食事先は
かつて行った
喫茶店だ



このデザート
おいしいですね

ごめん
明日香

少しトイレに
行ってくる…

な、なんだよ
これ……

何でこんな
メールが…

僕は震える足のせいで
崩れ落ちないよう歩くのが
精一杯だった
改めて携帯を取り出し
知らないアドレスからの
メールを確認する…



その送られたメールに添付
された画像の女性は
見れば見るほど
明日香としか思えなかった

もしこれが本当に
明日香なら、僕に隠れて
他の男とセックスを
していたと言うことだ…

そして、後日
前回同様に画像付きの
メールが送られてきた
ただ前回と違うのは…

紛れもなく愛する僕の妻
「明日香」の顔が写った
写真だった…

帰宅後——

孝弘さん

あの
どうでしょうか…

その…
今晚あたり…

ですから…
久しぶりにあなたを
感じたいと思って…

……っ

悪い、そんな気になれない…

でも…

あなたを
感じたくて…

その気になれないって
言っているだろっ！

そんな事より
早く記憶を
取り戻せよ！

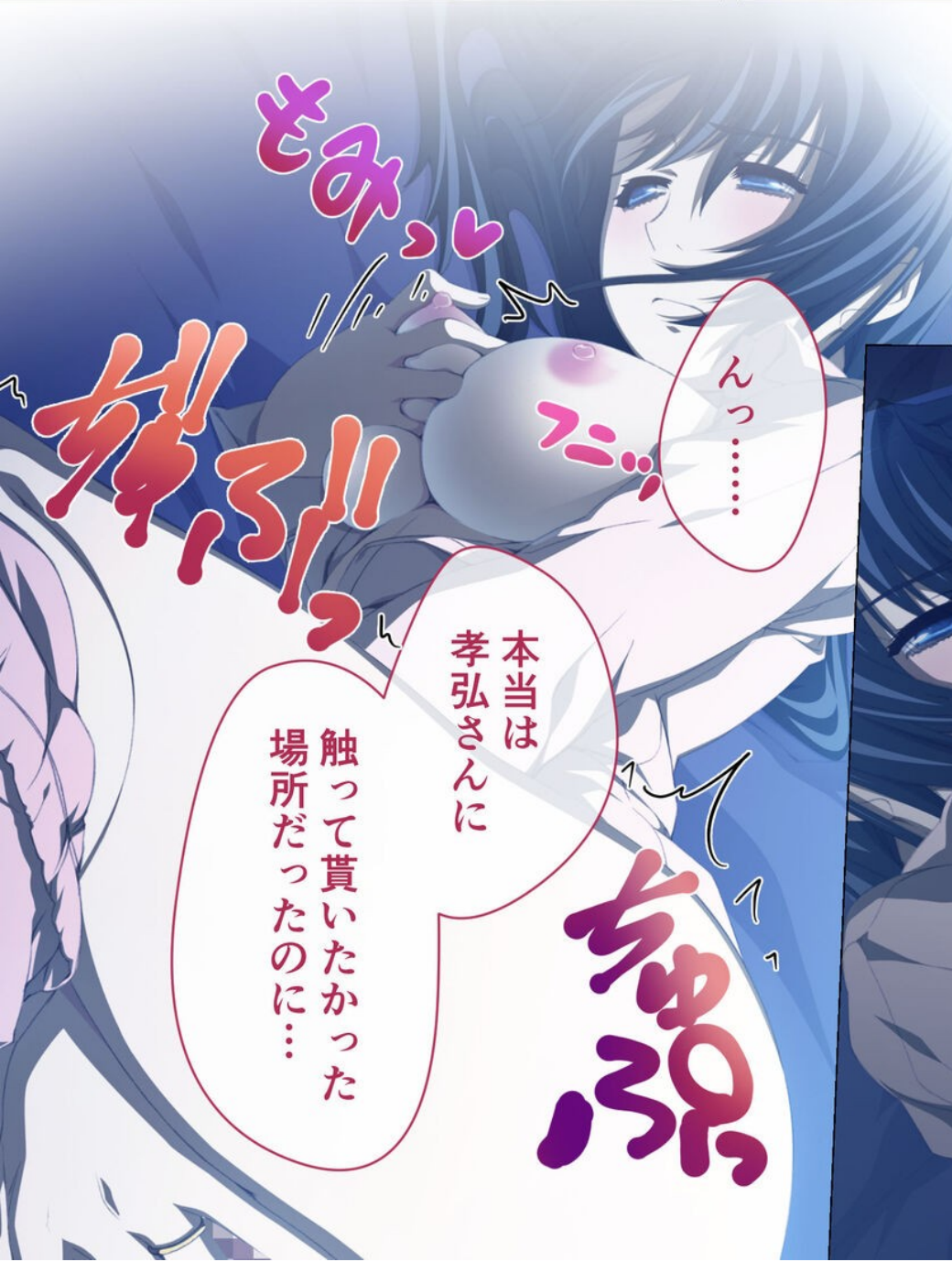
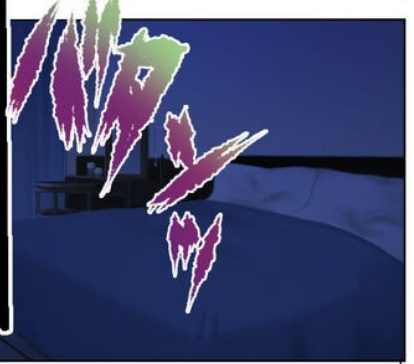


気づくと僕は
硬く勃起したペ●スを
握りしめて上下に
激しく擦りあげていた…



ご、ごめん
なさい…
わ、私そんな
つもりで…

他の男とセックスを
するよな今の
明日香は知らないうっ！



とみっ

ちゅるる

んっ…

本当は
孝弘さんに

触って貰いたかった
場所だったのに…

ちゅるる



やっぱり
寂しい…

きっと隣の部屋には
孝弘さんがいる…

くちゅっ

…ふっ…くっ

もにっ

んっ
おっぱいも…

あふっ
あくっ

くちゅっ

ああ、アソコ気持ち良いっ
思いつきり指で
かき回していききたい…

あんうっ、イク
イツちやうううっ……!!

びくっ

びくっ

びくっ

んっ……

くちゅっ……

一緒にいて欲しい…
寂しい私のアソコに
●スを入れて欲しい…

その私の脳裏に
浮かんでいる相手は
孝弘さんでは無かった……

やっぱりあの人の
とっての私は

事故に遭う前の私
今の私じゃ
なかったんです…

中川さんは
穏やかな表情で
話を聞いてくれた

そうでしたか
残念です…

でも僕は、明日香さんが
戻ってきてくれた…
それだけで十分なんです…

あっ…

再び私の中に
再生される情景…

全ては…

僕が
悪いんです

…実は前から
僕はあなたの事が
気になっていました

そっ、そんなこと
言われても困ります

私には主人が
いるわけですから…

その後、逃げだした
明日香を中川が
追いかける

そんな中川を
振り切ろうと
明日香は
外商配送用の車で
逃げだした

直接は対向車の
居眠りによる
はみ出しが
原因だったが

動揺した状態で
運転をしていた
交通事故だったのだ

申し訳
ありません…

僕はあなたに
酷い事を

そんな事があったとしても
それはもう終わったこと
ですし…

中川さんまで
いなくなってしまうたら
私はどうすればいいのですか？

お願いです……
私にはあなたしか
いないんです…

こうして私は
『夜勤』を
引き受けた

孝弘さんからは
残業でかなり
遅くなるからという
連絡を貰った

あの人は今の私を求めている
でも、目の前にいる中川さんは
今の私が良いと言ってくれた
ならば私が誰の側に
いたいと思うか――

あ……ごめんなさい……
そんなグショグショにして……

それほどまでに
私の事を思ってもらえて
嬉しいですよ

こんなに
濡れて……

ビクッ
グッ

あくううつつつつ
んっ、凄いですっ

んっ♡

はああああっ…はっ…
アソコの中
ゴリゴリって…んく…

ふっ♡

がっしりとした指先が
私のアソコの中に埋められ
小刻みに揺らす

ふぁっ♡

ダメツ、このままだと私イッちゃうっつ！
指じゃなく…そうっ、もつと
太くて硬いものをつっ！！

ああ…お願いします…
コレを…私の穴の中に
入れてください…

とろお…

明日香…

翌日、ろくに眠らぬまま居間で夜を過ごした後眠気でぼうっとした頭で会社に向かう

こんな状況である以上明日香の浮気相手が誰なのか探す方が先決なのかもしれない

浮気相手が分かれば浮気に到った事情を突き止めることも出来るだろう

まずは、明日香のパート先である書店へ行く事にした

中川さんに明日香の様子を聞くつもりだった

僕が書店に到着したのは店が閉まってから三十分ほどたった頃の時刻

こんな時間にすみませ…

んくっ、アソコの中ゴリゴリって…はあっ…

ぬちゅっ

ぬちゅ

はっ…いいですっ…
あああああ…
気持ちいいっっ…

幾度も幾度も
繰り返される挿入の音…

今、ドア一枚隔てた向こうで
中川が明日香の
アソコを味わっている…

それは僕とのセックスでは
上げたことの無い
激しく乱れた声だった…

すごく
可愛いですよっ
明日香さんっ

私っ好きっ、ああっ
あなたの事好きですっ

今私の中にっ！
ああっ、良いっ
熱いっっっ！

まさか明日香が…
あの明日香が
僕を裏切るなんて…

パルパル

はあ……

夜は駅前のビジネスホテルに泊まった

明日香が他の男とセックスしている様に直面して顔を合わせる事など出来るはずがなかった

!?

中川からの電話……!?

僕は中川に呼び出され公園で落ち合うことになった

その場に居たのが峰村さんで本当に良かったです

他の従業員の方なら後で僕が気まずくなりそうですから

それと、話が早く済むので良かったです

だからどうでしょう？

……は？

もうここまで来た以上

明日香さんと別れてもらえませんか？

……今、この時はなんて言った？

そんなのっ…
まずは明日香の気持ちを確認してからの話じゃないかっ

…分かりました

それなら今日、閉店して
一時間後に店に
来てもらえますか？

そこで明日香さんも
交えて話をしましょう

約束の時間まで
あと三十分ほどあったけど
このまま時間を過ごしていくのは
あまりにも辛すぎた

だから僕は、店内に
足を踏み入れていった…

はっ、あっ
ああああっ！！

確かに指定の時間より
早く着いてしまったけど
僕が来るのがわかって
しているだなんて…

また…なのかよ……

思わずドアノブを握りしめると
ドアに鍵がかかっていたいなかった
ドアの隙間から部屋向こうの
光景が垣間見える…

はっ♡

はっ♡

ヌキッ

はっ♡

ヌキッ

だって、今日のセックス
すごく気持ち良くて!!

んっ♡

はっ♡

勝手にあそこ締め付けて
いっちゃうんですッッ!

はっ♡

ヌキッ

目の前で練り広げられていく
現実に、僕は言葉を失い
呆然と見つめていく
事しかできなかつた

はっ♡

なんだか、今日の私
すごくエッチに
なっちゃってますっ!

ヌキッ

ぬっ♡

ぬっ♡

ヌキッ

じゃあ、もっと
激しくしますね

ヌキッ

ヌキッ



気づくとズボンをズリ下ろし
僕はペ●スをしごき始めてしまう…

愛する妻の姿を見ながら
僕もまた絶頂に達していった…

んんん
くろろろ

ズグ

あんっ
ああっくっ！

オ
ガ

あんっ
あっ

んんん

ズ
グ

ズグ…

ズグ

ズグ



はあ...

はあ...

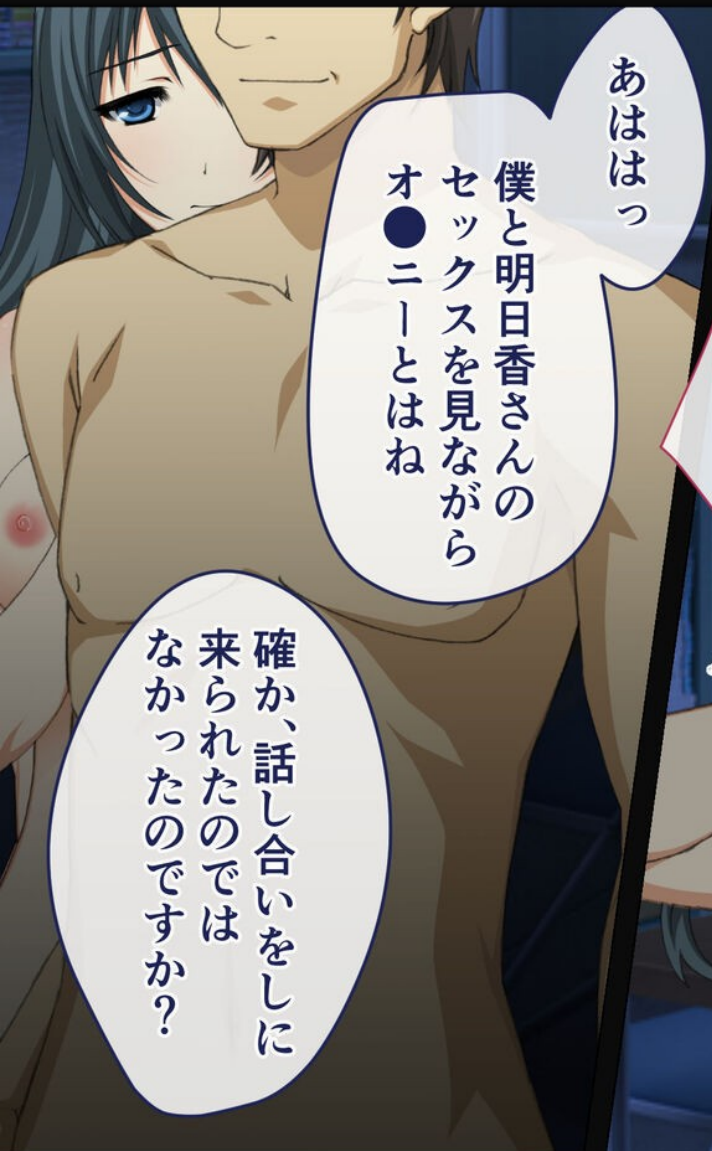


とりあえず
ティッシュを...



ぐすつ...
惨めだ...

自分の妻が他の男と
セックスをする様を見せつけられ
文句を言うことも出来ないまま
オ●ニーをしてしまった...



あははっ

僕と明日香さんの
セックスを見ながら
オ●ニーとはね

確か、話し合いをしに
来られたのでは
なかったのですか？



...え？

ええっっ!!
あっ、あなたっ!!

ふらついて体のバランスを
崩した明日香が
思わず扉に手をついてしまっ

ガクガク

ビクッ

こんな状況で
今更話し合いを
する意味が

どこにあるのかと
言うことですよ

中川さんの
言う通りです…

私の気持ちはもう
あなたには向いて
いないんです…

なんで……
なんでだよ……

やっぱり分かって
いないんですね…

ただ私を見て
欲しかった
だけなのに…

言葉で
通じなければ

実際に見て
貰うしか
ないですね

はっ…

はい
もちろんです

はっ…

みちおちっ



やめろ…
やめろよっ……

中川のもものは、僕よりも遙かに長く
太さも充実していて
男としての屈辱を感じずに
いられなかった

あっ♡

はっ♡

はっ♡

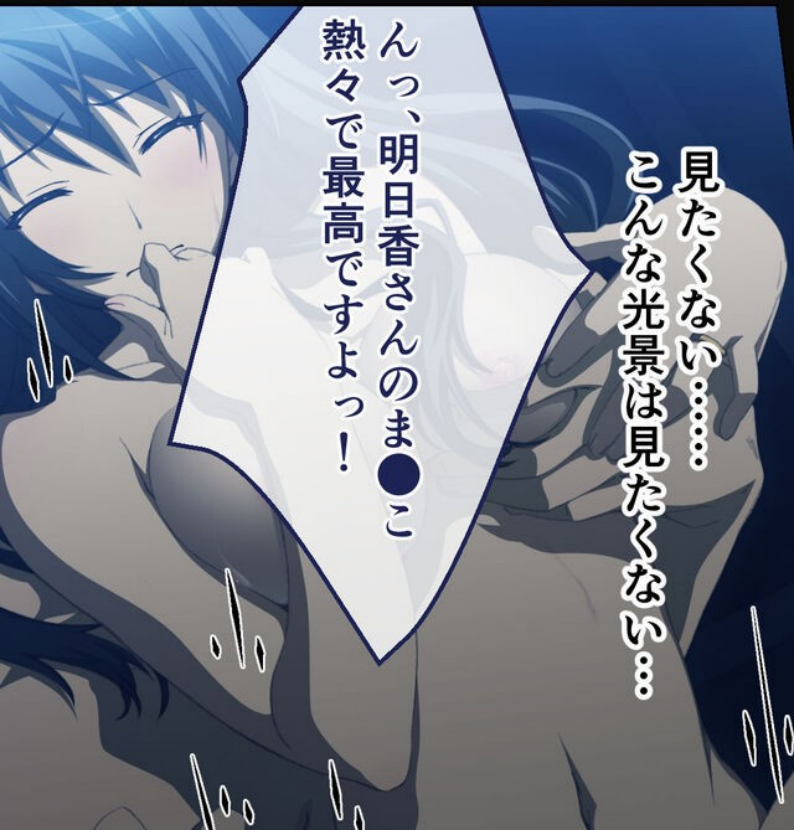
モニッ♡

モニッ♡

アッ♡

ヌキッ♡

ヌキッ♡



んっ、明日香さんのま●こ
熱々で最高ですよっ！

見たくない……
こんな光景は見たくない……



んん♡

中でビクビクって…
ああ、気持ちいいっ！

んくっ、中川さんの
ピッチリ入って

見たくないはずなのに
なぜか視線を外すことが
出来なかった...

はっっっ

はっっっ

あっ、くっ！
これは凄いですねっ！

あくっ、私もですっ！
もう、アソコ
熱くなって！

ズン

じゃあっ私の中で
どんどん気持ち良くな
ってくださいますっ！

あ……お願いだ……
いやだ……やめてくれッ
嘘だろっ……

んっ、そろそろ
限界でッッ！

ズン

アヒイツ！来たああっっっ！
熱いの、お腹の中
ドクドクッてえっっ！

とっ
130
んっ

ズン

ズン

ズン



その時、僕は明日香の
太股を流れる
一筋の白濁した
液体に気づく…

そして、その流れを
隠すかのように
そそくさと明日香は
服を身につけていく…

込み上げてくる憤怒に
体を突き動かされるまま

レジにあった
ハサミを振り上げ
中川に一気に振り下ろす

うわあああああ！！

今は取りあえず
逃げましょう！

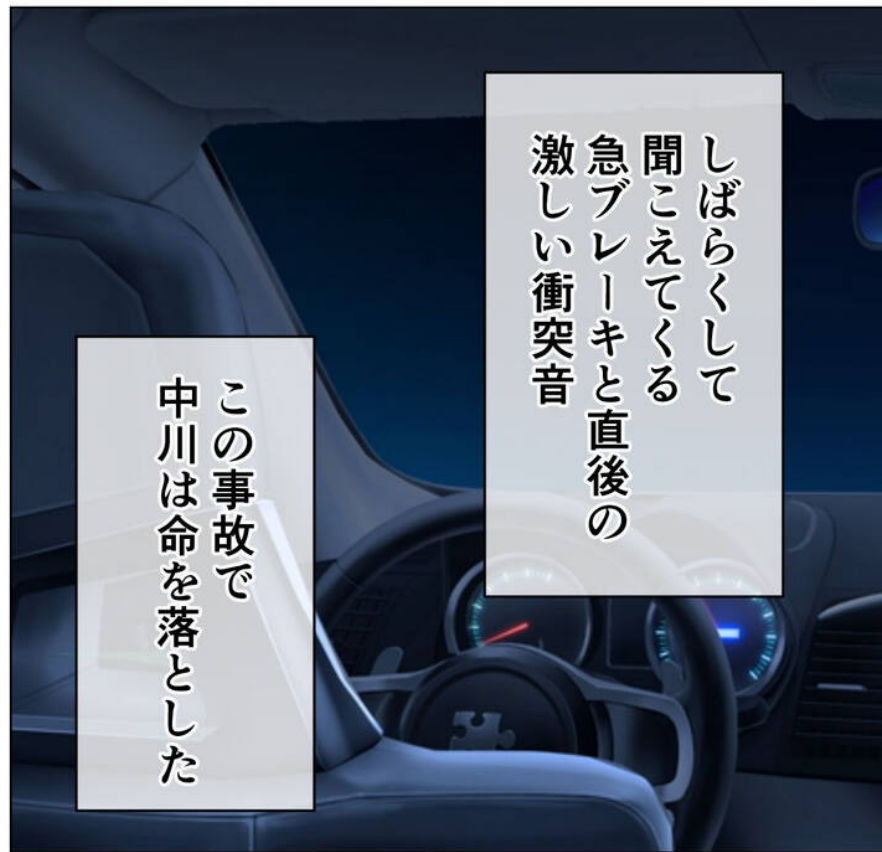
店の駐車場に
車がありますから

僕が振り返ると同時に
猛スピードでその車は
走り去って行ってしまふ…

やめてっ！
やめてください
あなたっ！



そして明日香は
奇跡的に大きな怪我を
せずに済んだ



しばらくして
聞こえてくる
急ブレーキと直後の
激しい衝突音

この事故で
中川は命を落とした



これで、後は彼女の意識さえ
戻ればいいのだが...

これじゃ
まるであの時の
繰り返しじゃないか

はち...

数日後——

え……？私……
ここはどこ……？

明日香!?

目を覚ました明日香は
前回の事故後の事は
覚えていなかった



明日香が退院し家に帰ってすぐに
互いの体を抱きしめながら
一刻を争うようにベッドに倒れ込む



あむ……
ん、んちゅ……

ちゅっ

ちゅっ

っ
っ
っ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅ

今日は久しぶりで……
だからあなたの体を
全部感じたいんです……

んっ
んっ

フュッ
フュッ

ズズッ
ズズッ

フュッ

ズズッ
ズズッ

んっ
んっ

フッ
フッ

フュッ

フュッ
フュッ

ズズッ
ズズッ

ズズッ
ズズッ

んっ
んっ
はっ、はっ……

ズズッ
ズズッ



はあ

やあつ
もういいですつ...

いくならあなたのを
中で感じながら
イきたいんです...

あつ、はあつ...
あつ、んむううう...---

キツ...

んっ

んお...

んはあ

ああつ、好きつ、
大好きですつ、あなた...

キツ...

キツ...

キツ...

キツ...

せゆっ…

んふうっ……はあ……
いま、一緒にいるんですね…

そうだよ
一緒にいるよ

これからもずっと

柔らかくて熱いその体を
僕はかつて一度失いかけた

ああい、いいですっ、あなたっ！
あんっ、私っ、もうっ！

だけでももう2度と
失くすような事はしない

おおっ、来てますっ
あなたっ、好きっ！
大好きなのっっっ！

イ
ク
ツ
ち
か
い
つ
る
ち
ら

ド
ク
ッ
ビ
ュ
ル
ル
レ
ッ
レ

ド
ク
ッ
♡

あ
っ
レ
は
あ
っ
レ
ビ
ク
ッ
ビ
ク
ッ
ビ
ク
ッ

明日香っ
僕も好きだっ！

スー

スー

スー



スー

スー

だけど、皮肉だよな…

ねえ、あなた……
お願いがあるんです

今の私だけ
見ていてくださいね……
昔の私ではなく……

明日香がこんな風にかつての記憶を取り戻し

僕の所に戻って来たのは
中川の寝取られが
あったからなのだ

この先もずっと僕は
疑惑を抱え込んで
いかなければ
ならないかも知れない……

終わり



大人の禁SEXY絵本

©アトリエさくら